

令和 4 年 5 月 22 日現在

機関番号：34511

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2021

課題番号：20K19016

研究課題名（和文）看護実践におけるモデリング測定尺度の信頼性・妥当性の検討および職場適応への影響

研究課題名（英文）Reliability and validity of the Scale for Measuring Novice Nurses Modeling in Nursing Practice and its impact on workplace adjustment

研究代表者

長野 弥生（Nagano, Yayoi）

神戸女子大学・看護学部・助教

研究者番号：60846442

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度は、「観察行動」「模倣行動」「展開行動」「探究行動」の4因子21項目からなる6段階リッカート尺度である。この尺度は、表面妥当性、内容妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性、内的一貫性、安定性を確保した信頼性・妥当性の高い尺度である。また、新人看護師のモデリングは職場適応行動を介して職場適応状態に至ることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新人看護師のモデリングを評価する指標ができたことにより、新人看護師自身がモデリングを振り返ることができたり教育担当者が新人看護師教育に活用することが可能となる。
また、これまで新人看護師の職場適応は職場の人間関係やリアリティショックが影響していることが示されてきた。本研究では、新人看護師自身のモデリングが職場適応に影響することが新たにわかり、新人看護師の職場適応への支援にはモデリングを支援する必要があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The Scale for Measuring Novice Nurses' Modeling in Nursing Practice is a six-point Likert scale consisting of 21 items in four factors: Observation behavior, Imitation behavior, Development behavior, and Inquiry behavior. This scale is a reliable and valid scale that ensures surface validity, content validity, construct validity, criterion-related validity, internal consistency, and stability. Research has also shown that modeling of novice nurses leads to a state of workplace adjustment through workplace adjustment behaviors.

研究分野：看護教育学

キーワード：新人看護師 モデリング

1. 研究開始当初の背景

Bandura は、観察学習はモデリングであると提唱している。モデリングは初学者の学習過程の初期段階に位置付けられ、観察を通して自己制御やフィードバックをしながら専門的知識を発展させると言われていることから、新人看護師のモデリングは専門家への発達過程として重要である。申請者はこれまで、修士課程において新人看護師のモデリングを質的に調査し、モデリングの概念分析 [1] や、臨床現場の指導者と新人看護師の認識のズレを埋める支援について提案した [2]。新人看護師のモデリングに関する研究は希少である。モデリングは社会化や自己効力感、自己調整学習、臨床判断能力の向上などに影響することが明らかにされているが、モデリングを尺度化したものは現存しない。

また、新人看護師の職場適応については、リアリティショックやストレス、アイデンティティの形成などが影響することが明らかとされてきた。しかし、先行研究では適応する個人が客体として研究されてきた背景がある。職場適応は周囲のサポートもさることながら、主体である新人看護師自らが職場に適応しようと努力し行動を起こしていくことも重要である。そこで、先行研究から、モデリングが職場適応に影響すると仮説を立てた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、[研究 1]看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度の信頼性・妥当性の検討と、[研究 2]新人看護師のモデリングが職場適応に与える影響を探索することであった。

3. 研究の方法

[研究 1]

全国の一般病床数 200 床以上の医療施設から無作為抽出法によって施設を選出し、協力が得られた 103 施設の 1,457 人の新人看護師に質問紙を配布した。返信用封筒で質問紙を回収し、研究協力候補者からの質問紙の同意確認欄への記入と返信をもって同意とした。再テスト法では、協力の了承が得られた対象者に約 3 週間後に再テスト用無記名自記式質問紙を送付し回答してもらい、返信用封筒で返送してもらった。調査内容は、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)、人格特性的自己効力感尺度、簡易版看護師の自己調整学習方略尺度、個人背景であった。

分析方法は、項目分析にて、シーリング効果、フロア効果、歪度・尖度、修正済み項目合計相関、項目間相関の検討を行い、回答傾向の偏りの有無を検討した。また、構成概念妥当性の検討のために探索的因子分析を行い、抽出された因子を潜在変数、それに属する項目を観測変数としてモデルを作成し、共分散構造分析を用いて確認的因子分析を行った。さらに、Cronbach's 信頼性係数の算出により、内的一貫性を検討した。基準関連妥当性の検討のために、人格特性的自己効力感尺度と看護師の自己調整学習方略尺度を用いて、それぞれ看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)との相関を求めた。安定性の確認として、再テスト法を実施し相関を求めた。

[研究 2]

研究 1 と重複しない一般病床数 200 床以上の医療施設から無作為に協力施設を選出し、協力の得られた 86 施設に所属する就職までに社会人経験がない(アルバイト経験は除く)新人看護師 1,536 名に質問紙を配布した。対象者に看護部長、看護研究責任者を通して依頼書、無記名自記式質問紙、返信用封筒を配布し、基本属性、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度、新人看護師の職場適応行動尺度および新人看護師の職場適応状態尺度について回答を得た。回収には対象者が個別に投函する方法を用いた。

分析方法は、本研究の概念枠組みにもとづき、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度と新人看護師の職場適応行動、新人看護師の職場適応状態の関係性を共分散構造分析により探索した。個人属性との比較は群間比較を行った。

4. 研究成果

[研究 1]

対象者のうち 358 名(回収率 24.5%)から回答が得られ、対象者の条件に該当しない者、欠損値を含むデータ、期日を超過したデータを削除し、337 名(有効回答率 23.1%)を分析対象とした。研究対象者の背景は、平均年齢 22.7 歳(±1.804)、女性が 316 名(93.8%)、男性が 21 名(6.2%)であった。看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度について項目分析を行った結果、合計 25 項目を削除し、質問項目は 59 項目から 34 項目となった。項目分析により洗練された 34 項目を用いて探索的因子分析を行い、4 因子(観察行動、模倣行動、発展行動、準備行動)21 項目が抽出された。探索的因子分析によって得られた結果に基づき、確認的因子分析を行った結果、GFI=0.896、AGFI=0.868、RMSEA=0.60、CFI=0.941 であった。各因子の Cronbach's 係数は 0.793~0.885 を示し、尺度全体では 0.930 であった。基準関連妥当性の検討では、

看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度全体と人格特性的自己効力感尺度の Spearman の順位相関係数では有意な正の相関は見られなかったが、簡易版看護師の自己調整学習方略尺度との Spearman の順位相関係数は 0.596 ($p<0.01$) を示し、有意な正の相関がみられた。安定性の検討では、再テストの同意が得られた 141 名に再テスト用質問紙(調査 2 回目)を送付し、69 名から返信があり(回収率 48.9%)、57 名(有効回答率 40.4%)を分析対象とした。看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度全体の 1 回目と 2 回目の Pearson の積率相関係数は 0.798 ($p<0.01$) を示し、すべての下位尺度で有意な正の相関を認めた。

[研究 2]

427 名(回収率 27.8%)から回答が得られ、研究対象者の条件に該当しない者、欠損値を含むデータを除外し、378 名(有効回答率 24.6%)を分析対象とした。研究対象者の平均年齢は 22.1 ± 1.1 歳、女性 359 名(95.0%)男性 19 名(5.0%)であった。モデリングが職場適応行動と職場適応状態に影響を及ぼす多重指標モデルを作成し、共分散構造分析を行ったところ、適合度は基準値を満たさず、改善が見られなかった。そこで、先行要件としての職場適応行動の結果、職場適応状態に至るといふ仮説にもとづき、先ほどのモデルに職場適応行動から職場適応状態へパスを追加したモデルを作成した。本モデルではモデリングから職場適応状態へのパス係数が -0.16 となり有意とはならなかった。そのため、有意ではないモデリングから職場適応状態へのパスを削除し、再度共分散構造分析を実施した。その結果、RMSEA=0.117 と基準値を超えたため、修正指数と改善度を参考にさらに分析し、RMSEA=0.096 となり、すべてのパスが 1%水準で有意を示した。モデリングから職場適応行動へのパス係数は 0.82 であり、決定係数は 0.67、職場適応行動から職場適応状態へのパス係数は 0.92 であり、決定係数は 0.85 を示した。看護実践における新人看護師のモデリングと個人属性では、有意な差は認められなかった。

<引用文献>

1. 長野弥生.(2019). モデリングの概念分析. *国際ナショナル Nursing Research*, 18(3), 63-71.
2. 長野弥生, 紙野雪香, 細田泰子.(2018). 新人看護師との認識のズレを埋めるモデリング支援, *看護実践の科学*, 43(8), 66-71.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yayoi Nagano
2. 発表標題 Development and testing of the Scale for Novice Nurses' Modeling in Nursing Practice
3. 学会等名 ICN congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長野 弥生
2. 発表標題 看護実践における新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響
3. 学会等名 第41回日本看護化学会学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------